

えた何かを引き寄せる力 ミッションインポッシブル

対
談
リ
レー

豊田 崇克

ネクストウェア(株)代表取締役社長

1963年兵庫県生まれ。
1982年兵庫県立芦屋高等学校卒業、1984年日本エス・イー入社。
1996年8月ネクストウェア株式会社設立、2000年12月ナス
ダックジャパン市場上場(現・東証JASDAQスタンダード)。
現在一般社団法人日本コンピュータソフトウェア協会副会長

ウィンドサーファーの少年が六甲おろしの風に乗り
超スーパーブラックIT企業に舞い降りて
サンダーバードの様な仕事場で憑りつかれたように没頭し
立替金を貰えぬままに、笑ってしまう条件提示
OBゾーンを譲り受け、休日はブドウ畑の農作業

OSK100周年に向け、想像を超越 破天荒な個性と出会い、毎日が

荻原 紀男 氏

(株)豆蔵ホールディングス代表取締役社長

1958年東京都生まれ。1980年中央大学商学部卒業。1983年公認会計士試験合格。アーサー・ヤング会計事務所(現 アーンスト・アンド・ヤング)入所。1988年朝日監査法人(現あずさ監査法人)に転籍。1996年 荻原公認会計士税理士事務所開業し、独立。2000年 株式会社豆蔵(現 株式会社豆蔵ホールディングス)を創業、取締役就任。2003年 同社代表取締役社長に就任。同年 税理士法人プログレス開業、代表社員就任。2014年 一般社団法人日本コンピュータソフトウェア協会会長就任。2016年 一般社団法人IT団体連盟 幹事長就任。柔道2段。普段は豆蔵柔道クラブの道場長として子供達と汗を流す。座右の銘は「忘己利他」。

会社倒産にもめげず、独立すれば金は無し
裸一貫再出発と覚悟して、やがて株券刷って上場へ
大阪文化の衰退に応援団も立ち上がる
舞台は数式解くように、プログラミングでよみ解く
宝塚と似ていても、酸っぱさ度合いに違いあり
大きな舞台に立てる幸せ、太輪の花を咲かせる喝采の嵐



趣味のウィンドサーフィンが

IT業界へ入ったきっかけ

荻原 前回の松竹の武中専務からバトンを引き継ぎ、どなたにしようかといろいろと考えて、豊田崇克さんを指名させていただきました。豊田さんは、今、日本の地域芸能を残そうとなさっています。昔の名前は、「大阪松竹歌劇団」、現在は「OSK日本歌劇団」の経営を引き継いだのです。一所懸命にやられている「繋ぐ」というところを重視して、武中さんから私、そして

豊田さんへ言うことで、宜しくお願いします。

豊田 こちらこそ宜しくお願いします。

荻原 豊田さんとお会ったのは、2005年に衆議院議員の茂木敏充氏が団長として行った、アジアIT視察ミッションで一緒した時です。非常に面白くてアグレッシブで、IT業界には珍しい感じの方だったので、惹かれました。たまたまその時、豊田さんがコンピュータソフトウェア協会の理事をされていて、その縁で私も理事に引上げさせていただきました。

豊田 荻原さんは、今ではコンピュータソフトウェア協会の会長で、日本IT団体連盟の理事にもなられて、コンピュータ業界を代表する方になっていらっしゃいます。

荻原 豊田さんは芦屋の「ボンボン」ですけど、学生時代はともやんちゃだったと聞いています。どんなヤンチャだったんですか？

豊田 全然……。父は大阪ガスのサラリーマンで、決して「ボンボン」ではないですよ。母から聞いた話では、父が相当だったそうで、家に給料を入れたのは私が高校を卒業してからだと聞かされてました（笑）。母は帳簿付けやいろんなアルバイトをして私を育ててくれました。私は小学校の時からクラブ活動でバスケとボールをやっていたんですが、高校3年の時にウィンドサーフィンを知って、結構ハマったんです。ずっと海にいて、学校にも行かなくなっていたので、今から思うとよく卒業出来たな、と思います。

荻原 どの海にいらしてたんですか？

豊田 甲子園浜ですね。六甲おろしの風が吹いていて、関西のウィンドサーフィンのメッカなんです。今でも姉が「スフーキー」というウィンドサーフィショップをやっています。たまに海に行きますが、もつこの身体では……。今ではスポーツ観戦とゴルフかな。

荻原 そんな自由な学生時代を経て、なぜ突然IT業界に入ったんですか？

豊田 とにかく、変化を感じていたいと思ったのがひとつ。「日本エス・イー」という会社が、当時は年率600%の伸びを記録していて、IT業界っていうのは凄いなと思いました。その頃、たまたまシャープのMZパソコンなどをいろいろ触れたので、ここは体験しておきたいと思って入社しました。大学にも行ってませんが、ウィンドサーフィンのセイル設計で、「アセンプラ」という言語ができたのが私の強みで入社が決まりました。当時、超スーパードラッグ企業でね、現在は、もうなくなっているのですが、平均で月350、360時間働いていましたね（笑）

荻原 もう過去の話ですね（笑）

豊田 でも、当時は辛いとか思ったことがないですね。子供の頃に好きだったテレビ番組の『サンダーボード』みたいな仕事場で、担当していたのはファクトリーオートメーションでしたが、ファクシミリとかコピー機の筐体工作機械が作っていくんですよ。鉄板を吸盤で吸って、レーザーで穴を開けて、水のカッターで切ったりして、自分が作ったソフトウェアで工作機械をコントロールするわけです。本当に憑りつかれたように仕事ができる時代ですね。入社から6年目ぐらいに、アメリカのシリコンバレーに行かされ



なので、エンジニア生活は、6年しかありませんが、その時代が人生で一番幸せな時間でした。何も考えずに没頭できるという経験をさせてもらったことは、今振り返ってもありがたかったと思いますね。

破天荒なオーナーと過ごした

―IT業界黎明期

荻原でも、そのままエンジニアとして仕事を続けていたら、多分現在の豊田さんはなかったと思いますね。社長の小林英愛さんという強烈な人と出会う、人生観が変

わったんじゃないですか。

豊田 変わりましたね。小林社長が亡くなったのもう10年になりますが、今度のOSKの千秋楽も奥様に観に来ていただくなど、いまだにおつき合いをさせていただくほど、公私ともに可愛がっていただきました。毎日がミッション・インポシブルで、大変でしたけどね（笑）。「アメリカの会社から小切手を回収して来い」と言われて「すぐ取て来ます」と行きます。本当に苦労して回収しますと、その後はハワイで集合回収した小切手を1週間で使い切るような

オーナーでした。免税店を買い占めるような買い物をされる時、「何かお土産を買ってやるから」とよく言われましたが、「私はそんな品のないことはできません」と断っていましたね（笑）。私はそういう時の小林会長の笑顔を見るのが大好きでした。

荻原 本場に相当な型破りですね（笑）。

豊田 もう30年も前になりますが、小林さんは間違いなく日本のIT業界を作った方で、今でも彼が創った業界の健康保険組合は「No.1健保」と言われています。当時、孫正義さんとCSKの大川功会長とも深いつき合いで、ゴルフや食事の時に、私も一緒にさせていただきました。

当時シリコンバレーに仕事で行くと、「帰りにワインを買って来い」と言われて、それも、何百本を次の日に赤坂に持って来い、と。1便では運び切れないので、飛行機会社に交渉して、日本に向かう全便に分けて載せて、その費用を20代半ばの私が全部立替えるんですよ。当時は、10枚くらいクレジットカードを持っていたんですが、20代ですから限度額が50万円ぐらいいしなくてね。そんなことを何とも思わない傑作なオーナーでしたから。そんなことを楽しめた自分がいて、今につながっていると思いますね。想像できないようなユニークな人達の中で鍛えられました。

荻原 米カリフォルニアのワインの名産地

ナバに、ぶどう畑を造って来いと言われた、とか言う噂も聞きましたね……。

豊田 大川会長がナバの「シルバード」というゴルフ場にコテージがついているリゾートを買収して、小林会長はその縁で「シャルドネ・ゴルフクラブ」というのを買っているんですね。私は出張の日当が、1日3万円ほどだったので、アメリカに1年間いると、それだけでも1000万円を超えるはずなのですが、会社が払ってくれないんですよ。そうしたら「豊田、お前に耳よりな話をする。ゴルフ場のOBゾーンをお前に譲るから、ぶどうを植えろ」と言うんです（笑）。

荻原 あははは、もの凄い発想ですね。豊田 それで、サンフランシスコにいる時は、休みの日などにナバのゴルフ場に行つてぶどう畑を造る農作業をしていました。現在、そのゴルフ場はゲーム会社のオーナーが持つていて、ワインができるくらい美味しく飲ませていただいていますよ。

荻原 今もそのぶどう畑はあるんですね。豊田 ええ、私にらては、愛と青春の象徴のような感じですよ（笑）。日当はただけなかったんですが、日本人がああいう所にぶどう畑を持ったのは、小林会長が最初じゃないですかね。20代の頃の話は周りに話してもあまり信用してもらえないような生活でした。「今からすぐに飛行機に乗っ

で、あさつての夜に赤坂で予定している接待にワインを持って来てくれ」と、電話で平気で言うようなオーナーでしたから。でも、今日いろんな事を幅広く考えられるようになったのは、あの時いろんな経験をさせていただいたからだと思いますね。

荻原 貴重な経験をなさったんですね。

豊田 特に、当時のIT業界を作った方々は本当におもしろい方で、「豪傑」とはこういう方々を言うのだろうと思います。

起業前も起業後も

ミッション・インポッシブル

荻原 もう一つ伺ったエピソードがありましたね。アメリカの駐車場でとなたかを待っていた、とか……。



席で語り合う兩人

豊田 データベースを日本に持つてくる時です。あの時も「日本の販売権利を取るまで帰って来なくていいから、お前、行つて来い」と言われて、私は英語ができなかったのに無茶なミッションで（笑）。どうしたらアポが取れるのかを考えながら、初めは

メーカー会社の駐車場に1カ月ほどずっと通うだけでした。いい時代でしたね。今なら、すぐに警察に通報されるでしょうね。当時は「変な奴が来るぞ」と言うことで済みました。警備員にボテトやハンバーガーを渡しながら、受付の女性や会社の人を紹介してもらって、最後は交渉相手までつながったのですから、まさにあり得ない話（インポッシブル）だったかもしれません。小林オーナーは元々CSKの社長室室長で、「大変なことは関西人にやらせろ」と言う大川

会長の指導を受けていたんです。私が大阪の営業エンジニアとして抜擢されてね。

荻原 大変なことと言っても、違法とか危険とかいうことではなくて、多分ミッション・インポッシブルなこと、という意味ですよ。

豊田 そうです。当時は、ITバブルだったということもあるかもしれませんが、本当にびつくりするようなミッションばかりでした。オラクルの創業者のラリー・エリソンさんのお宅にも3、4回、お邪魔させていただいたり。世界が狭い時代でしたね。

荻原 その後に独立するわけですが、どういう経緯だったんですか？

豊田 勤めていた会社が倒産しましたね。小林会長の会社でしたが、IT以外にも北海道が地元で、不動産もゴルフ場もやっていました。拓銀がなくなった影響を大きく受けたんです。その時、私は大阪で40〜50人のセクシオンの長で、正直、私一人だとすごくいい就職先がたくさんあったんですが、自分が採用した社員に申し訳なく、一度一文なしになって、裸一貫から出直そうと決心をしました。妻には「迷惑かけるけど2、3年は我慢してね」と伝えて、勤めていた営業所を買い取って、「ネクストウェア」という会社にしました。小林会長の下で働いていたサラリーマンの時は、それこそITバブルのような時代でしたから、蝶よ

花よの生活を送っていたんですが、自分で会社をやると100万円の現金もないんですね。家を抵当に入れようにも銀行が全く相手にしてくれなかったんですが、カリフォルニアでの経験を活かして、某銀行の支店長に会いに、朝8時にはその銀行の支店に出勤するという生活を10カ月ほど続けました。そうすると支店長が「あなたの熱意は分かりました。月初に1億円貸すから、月末には1億円返してくれ」と言て下さったんです。その方とは今でも年賀状を交換しています。

荻原 あははは。凄いですね、言ってしまうとフアクタリングですね。

豊田 そんな機能は、当時の銀行には多分なかったと思います。支店長が「そこまで頑張っているんだつら、株式をもう少し増やせ」と言って、ベンチャーキャピタルを紹介して下さった。初めて株券を刷って資金を調達したわけです。お金のない生活が29歳で始まって、31、32歳で直接金融をやらせていただき、36歳の時上場できました。スピード記録ではトップの方じゃないかと思っています。

荻原 たつた5年で上場したんですね。その間、危機のようなことはありませんでしたか。

豊田 月初に1億円借りて月末に1億円返していた時、1度だけ倒産を意識したこ



新橋演舞場の客

とがありました。その年はうるう年で2月が1日多かったんですが、それに気づかなくて、28日に「3000万円足りない」と騒いだことがありますよ(笑)。

荻原 それは肝を冷やされましたね(笑)

豊田 ベンチャーキャピタルにお金を出していただいた時は「5年以内に上場します」と言うのが口約束でしたので、約束だけは破りたくないと思って。ラッキーなことに本当に上場できました。お金がなくても、こんなに皆さんに優しくしていただけるものなんだ、と思いながら生きていました。

荻原 その当時は大阪におられたんですか？接待とかどうされていたのですか？

豊田 大阪で、北新地のママに可愛がつていただきました。当時お世話になったママの中には、今も株主の方がいらっします。

サラリーマンの時によく通ったお店で、私がオーナーになってからの1年半程はタタ飲みでした。大阪で一番高いクラブに行つて「お金がないんです」って言いながら、大切なお客さんを連れて行くと「ちよと、シャンパン出してあげて！」(笑)とママがおこつてくれました。(笑)

荻原 それも、サラリーマン時代に相当使ったからですよ(笑)

豊田 ありがたい話です。

稽古場の問題がきっかけで

OSK日本歌劇団のオーナーに

荻原 OSK日本歌劇団のことについてお聞かせ下さい。創設はいつ頃ですか？

豊田 1992年に大阪松竹座ができた時です。95年前ですね。当時、すでに宝

塚ができていて、この間100周年でしたから、ちょうど5年遅れて発足したことになります。大阪松竹座と共にできた「松竹楽劇部」が基になっています。その後、「大阪松竹少女歌劇団(OSSK)」、「大阪松竹歌劇団(OSK)」と、何度か名称を変えながら活動を続けてきました。

荻原 活動の場所も時代によつて違いますよね。

豊田 新たな拠点となった「あやめ池遊園地」での第1回目公演は1950年でした。この頃の生徒募集には、50人の募集に2000人もの応募が殺到したそうです。

また、1957年に公開されたアメリカ映画『サヨナラ』では、OSKでロケ撮影も行なつたんですよ。この映画は、アカデミー賞や美術賞を受賞していて、東洋人の方(ナシメー梅木さん)が助演女優賞を受賞されたんです。そんな由緒ある映画にOSKも関わつていたわけです。そんな輝かしい時代を経て、1971年にOSKは近鉄グループ傘下の劇団になります。本拠地である「あやめ池円形劇場」での公演に加え、近鉄劇場公演も始まり順調に進んでいたのですが、時代の波には逆えず、とうとう近鉄がOSKを手放してしまつたんですよ。

荻原 劇団員の方々が署名運動をしたのもその頃ですか？

豊田 OSKが「BUFFALO」ズと共に近鉄から

離された時、劇団員が京都の四条大橋で署名運動をしたんです。現在のトップスターの高世麻央さんも、「OSKを継続させてほしい」と街頭に立ちました。それが、松竹の永山会長目の目に止まつたんです。南座での観劇が終わつた後、永山会長がたまに通るかかつて、「あれは誰？」と聞かれたそうです。そこでOSKの説明の中で、「S」は「松竹」の「S」だと分かり、「近鉄の時があつて、劇団員たちで運営し、失敗して……」などと話があつて、そこから新たにまた松竹座で舞台が始まつたというわけです。

荻原 それはやっぱり、永山さんのお力ですね。

豊田 まさにそのとおりです。それから、私達が関わるようになり、ありがたことに、創立90周年時は日生劇場公演を経験させていただき、新橋演舞場公演は今年で3回目です。それまでも松竹座や京都四條南座で年1回、劇団員がほぼ全員出演するグランドレヒエーを上演させていたっており、その面では松竹さんは本当に懐が深い会社です。今でも松竹さんには足を向けて寝られない、と思つています。現在のトップスターの高世さんはある意味、もの凄く苦勞をされて、橋の上で署名運動までした人なので、見てみるとやっぱり遅いですね。

荻原 OSKの引き継ぎにはどういう形で



手を挙げたんですか？

豊田 うちの顧問弁護士が経営に参加してたんですけど、稽古場や研修所として借りていたビルが、耐震の問題でなくなることになってね。やはりOSKは稽古場や研修所がないと存続できないんですよ。新しい子が入って来ないと継続できないと言うこと

とです。研修所を運営できないと劇団を継続できません。研修所というのは、正直凄くコストがかかるんです。もちろん授業料もいただきますが、先生を呼ばないといけないのと、ダンスのレッスンでドットアンバツンするでしょ。普通のビルではとても無理です。うちも、大阪本社の大会議室をスタ

ジオに改造して研修所しているんですが、ライタンスの稽古なんていうたら、もうビルが揺れるんですよ。

荻原 そうでしょうね。目に浮かぶようですよ。

豊田 一般のビルでは「すぐに出て行け」って言われますね。2012年、稽古場として使っていたビルがなくなるということになった時に、やるか、やるまいか、の決断を迫られました。正直なところ、私ものめり込むほどミュージカルが好きなのであればありませんでしたからね。

2012年に、私ひとりではできないので、誰か手を挙げてくれたらいいのにな、というところで、実はその時、当時の京阪電気鉄道の相談役で大阪商工会議所の会頭佐藤茂雄さんに伺ったんです。「どうします？」

大阪は文楽座も非常に危険な状況になっていて、文化がどんどん衰退しますよ、これでOSKもなくなったら、これは寂しい街になりますよ。皆さんが応援して下さい。それなら、私も頑張りますけど」の様な事を本気で言ったら、佐藤さんが「100%応援するのでやってください」と言ってくれたんですよ。おかげで「OSK日本歌劇団支援委員会」という応援団ができ、佐藤さんにはその会長に就任していただきました。現在も140社ほどが加盟して応援して下さっています。

佐藤茂雄さんは2015年にお亡くなりになりましたが、その次の大阪商工会議所の会頭に就任された尾崎会頭に「OSK日本歌劇団支援委員会」の会長を引き継いで就任していただき、それをバックグラウンドに私のところで運営するというスタイルを作つて今日に至っています。というわけで、うちの会社社ではないんですが、そういう意味で私はOSKのオーナーというポジションとなつています。上場企業ですので、そういう背景のところが子会社にするにはどうしても時間が必要だなということもありますね。

荻原 一口に「興行」と言ってもさまざまな問題があつて、なかなか難しいものですね。

豊田 5年の間に、ひとつひとつ問題を整理して、今ではもう赤字はなくなりました。大きく儲けるなどはできませんが、自分達で興行できるようになってきたところです。この次はまた大きな夢を追っていかないとはいえないわけですが、90周年から始めた建て直しが95周年にできたのかな、という感じですよ。

100周年に向けて

IRへ活躍の場を広げる

荻原 さまざまな問題をクリアしながら、この5年で建て直しが出来たわけですが、



これからのさらなる夢は何ですか？

豊田 やつぱり100年に向かって、自分の所の小屋を持たないといけない、と思っています。私が関わり始めた時に26名だった劇団員が、現在50名まで増えました。研修所にも本科と研究科それぞれに10名所属していますから、ほぼ70名です。常設劇

場となると毎日やるわけですから、少なくとも70名ぐらいは必要となります。人数的にはあと2年でほぼクリアできますし、今年も優秀な研修生が入って来ますから、常設に向けて頑張っていきたいと思っています。100年続く劇団を、プロジェクトというのはおこがましいですが、劇団員の

彼女達と一緒に経験して行きたいですね。

荻原 それは楽しみです。そして入団者が増えるといいですね。

豊田 意外に思われるかもしれませんが、ミュージカルや芝居は1人で、凄く似ていると思います。我々の仕事は、目に見えないものを納品するでしょう。その納品物で一番大事なのは、お客様の感動とか満足度というもので、もちろんケチなこともできませんし、トラブルがあってもいけません。劇やミュージカルも同じです。ミスのないようにしないと、ターンするタイミングをちゃんと間違えただけでも大怪我をしてしまいます。一度、舞台で役者同士が正面衝突して大怪我をしました。とありますが、そのぐらいのスピードで舞台は動いているんです。作品(コンテンツ)そのものは人が作っていくもので、今後おそらくAIは、我々の社会経済にどんどん入って来ますが、この仕事で意外とコンピュータには代えられないものですから、感動や満足を人に与えられるかという点では、よく似ていると言えます。

現在のOSK日本歌劇団の社長山口氏も含めて、OSKに入ってもらっている関係者は、どちらかというと数学系ですね。脚本家とかは文系ですが、舞台上落とす時はもう数式を解いていくような感じで、想像力がないとケガをしてしまいます。ここでは何

秒で着替えて、何回着替えてとか、音楽もこの首域をこまぎで持つて行くとか、そういうことまで考えるのは、結構プログラミングと似ている気がします。

荻原 今、入団希望者は増えて来ていますか？

豊田 私が始めた時は3人とか4人の時もありましたが、今ではずいぶん多くの方が応募者として来てもらえるようになりました。OSKに入団してくる人はお金持ちのお嬢さんばかりじゃなくて、夢を追いかけて来る人のような気がしますね。

荻原 常設の劇場も、夢ではなく、是非実現させていただきたいと思っていますね。

豊田 最近、よく宝塚さんと比較されます。まだまだ大きな目標ですが、宝塚とOSKの差は何だろうと考えたり、こうやって取材を受けたりする時に話しますが、少女歌劇団には「夢々しい」と言う言葉があります。「夢のような」と言う使い方もありますが、本来の「夢」と言うのは「夢い」という意味もあって、夢々しいんです。宝塚とちよと違うのは、夢々しいところまでは同じですが、OSKは倒産とか解散の危機が2回も3回もあったので、ちよと酸っぱい感じなんです。劇場に行っていたら分かんると思いますが、宝塚のお客さんはほぼ全員が女性なのですが、OSKは、我々がやり始めて、いろんな経営者の方を

ご紹介したり、いろんなおじさんに「応援してください」とお願いしていますので、おじさんのお客さんが結構多いんですよ。レジーのお客さんがおじさんで、夢々しい中にちよとした酸っぱさを感じているんでしょうね。自分が若かった時代に頑張っていた頃の精神構造がちよとかぶるんですね。だから、その酸っぱさが魅力なんだと思っています。

OSKと宝塚との大きな差は、支援委員会の方々をはじめ、おじさんのファンが多いこと。これは楽しいですよ。

荻原 今度、日本にもIR (International Resort・統合型リゾート)ができます。今、マカオ・シンガポール型なのかアメリカのラスベガス型なのかという話がありますが、マカオやシンガポールを真似すると、実際には日本にお客さんが来なくなってしまうという話があつて、日本はとにかくラスベガス型をやらなきゃいけないと思うんです。そうすると劇場はできますが、よくよく考えてみると、出し物が歌舞伎だけというわけにはいきません。さまざまものが出てくる中では、常設型というよりも、全国のIRに出演するチャンスがもの凄く増えるんじゃないでしょうかね。それは凄くいいと思いますよ。

豊田 今も旅行会社や広告会社からたくさんのおファーをいただいています。IRを

含めたこれからの都市開発に当たって期待されているということを、昨年ぐらいからひしひしと感じています。いろんなところで注目されていてありがたいですね。言葉を通り越した舞台、この仕事はそういう面ではインターナショナルに活躍できるのかなと思っています。

荻原 バリのショーにも負けないようなエンターテインメントにしていきたい。

豊田 世の中から必要とされるタイミングももちろんですが、彼女達自身が想像を絶する大きなものを引き寄せる力を持っているような気がしますね。

荻原 先ほどもちよと伺いましたが、本番前に1カ月の稽古をするんだそうですね。大変なものですね。

豊田 本当に変なものですよ。でも、こういう大きい舞台に立つて、お客様から喝采を受けるなんて幸せですよ。そして多くの人に感動を与えていく素晴らしい日本の文化、伝統ある劇団です。

荻原 これまでは劇団員の皆さんも豊田さんいろいろな苦労があつたと思いますが、私も微力ながら応援させていただきまして、100周年に向けて輝かしい大輪の花を咲かせて下さい。今日はどうもありがとうございました。

豊田 こちこそ、どうもありがとうございました。



OSKの皆さんと（新橋演舞場にて）